

授業科目(ナンバリング)	専門基礎演習 B (DH202)			担当教員	中村 龍文		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>社会福祉を学ぶ者にとって、医学の知識は必要不可欠なものである。専門力、情報収集・分析能力、コミュニケーション力、協働・課題解決力および多様性理解力の獲得を目指して、医学と関連した人体の生理機能、健康、保健、疾病の予防などの分野で社会福祉に関係する様々な興味ある項目について、ゼミ生自身が主体となって、テーマを選び、関係した資料を収集し、それらをもとにまとめ、わかりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標とする。さらに、論文執筆の基礎について学ぶ。</p>							④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑪ ⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> 自分のテーマについて、重要な箇所を指摘できる。 論文の形式、構成について説明することができる。 グループディスカッションにおいて、問題点を指摘できる。 				<ul style="list-style-type: none"> 自己の発表 課題レポート グループ発表 	5% 5% 5%	
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> 図書館で文献検索ができる。 収集した文献を読み内容を分析できる。 インターネットを活用した、資料の収集ができる。 				<ul style="list-style-type: none"> 自己の発表 	15%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> 自分のテーマについて、論理的に発表することができる。 グループディスカッションに参加し、十分に討議できる。 				<ul style="list-style-type: none"> 自己の発表 グループ発表 	20% 20%	
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> 自分が選んだテーマに関して、社会福祉的側面からある一定の見解を持つことができる。 				<ul style="list-style-type: none"> 課題レポート 	20%	
多様性理解力	<ul style="list-style-type: none"> 自分が選んだテーマに関連した分野のことも理解ができる。 グループディスカッションにおいて、内容を十分に理解できる。 				<ul style="list-style-type: none"> グループ発表 	10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>定期試験は行なわない。自分で決定した発表のテーマについて課題レポート(25%)を作成し、どれ位深く掘り下げて調べているか、また自己の発表(40%)でのプレゼンテーションにおいてどれ位わかりやすくまとめているかが評価の基準となる。また、グループ発表(35%)の内容についても評価したい。その都度フィードバックを行い確認する。</p>							
授業の概要							
<p>将来の卒業研究に向けて、その基礎的な学習として発表用のテーマの選択、文献・資料の収集の方法、発表用のレジユメのまとめ方などを学ぶ。各ゼミ生によるプレゼンテーションが行われた後に、ゼミの全員によるディスカッションを行う。プレゼンテーション担当者は、質疑に耐えられるよう準備を行わなければならない。また、病院など実際の医療機関への訪問、医療ソーシャルワーカーなどの医療福祉職の方々との意見交換の場も持ちたい。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：とくに指定しない。</p> <p>参考書：必要なものは適宜紹介する。</p> <p>指定図書：大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法 改訂第二版 玉川大学出版部</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>教員の講義を学生が聴くという一方通行の授業では無く、ゼミの学生が主体的に何事も進めていって欲しい。プレゼンテーションの資料作りのために可能な限り図書館を利用してほしい。また、インターネット検索を含めた色々な文献検索の方法も習得して欲しい。社会の状況にも常に目を向けて欲しい。そのためには、色々な新聞やニュースを通して社会の大きな流れをつかんで欲しい。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	専門基礎演習 B のスケジュール計画	ゼミの進め方について、全員の意見を基に計画を立てる。	復習：スケジュール案を自分なりに考える。
2	テーマの選定について	テーマの発表について、各自のテーマの選定と発表順番を決定する。	予習：自分の発表テーマを確認する。
3	テーマの発表、グループディスカッション①	レジュメの作成と発表(担当者)。グループディスカッション。	発表の準備と予定されたテーマについての下調べ。
4	テーマの発表・グループディスカッション②	レジュメの作成と発表(担当者)。グループディスカッション。	発表の準備と予定されたテーマについての下調べ。
5	テーマの発表・グループディスカッション③	レジュメの作成と発表(担当者)。グループディスカッション。	発表の準備と予定されたテーマについての下調べ。
6	テーマの発表・グループディスカッション④	レジュメの作成と発表(担当者)。グループディスカッション。	発表の準備と予定されたテーマについての下調べ。
7	テーマの発表・グループディスカッション⑤	レジュメの作成と発表(担当者)。グループディスカッション。	発表の準備と予定されたテーマについての下調べ。
8	テーマの発表・グループディスカッション⑥	レジュメの作成と発表(担当者)。グループディスカッション。	発表の準備と予定されたテーマについての下調べ。
9	論文執筆の基礎①	学術論文にならない文章、論文の書式について学ぶ。	復習：論文の書式について確認する。
10	論文執筆の基礎②	論文構成（序論、本論、結び、文献リスト）を学ぶ。	復習：論文構成について確認する。
11	論文執筆の基礎③	論文のテーマ(主題)決定の考え方について学ぶ。	復習：テーマ決定について確認する。
12	医療施設訪問	佐世保市内の医療施設で最新の医療機器等の見学実習。	復習：医療施設での知識をまとめる。
13	全体会	3年次専門演習へ向けたオリエンテーション	復習：3年次のゼミ配属について考える。
14	外部講師講演	医療福祉職の方々の現場でのお話を伺う。	予習：外部講師の質問を考える。復習：講演内容をまとめてみる。
15	全体のまとめ	ゼミを振り返り、各自の反省点、達成点をそれぞれレポートにまとめる。	復習：反省点、達成点の確認を行う。

授業科目(ナンバリング)	専門基礎演習 B (DH202)			担当教員	中村 尚生		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
心理学は社会福祉学と近接した領域であり、対人援助職を志す者が相談者を適切に理解するために心理学的知識や視点を獲得することは必須である。また、援助行為には対人コミュニケーションが必要不可欠であり、対人援助職を志す者が自分自身のコミュニケーションのあり方を把握しておくことは重要である。本授業では、対人援助職を志す者として、こころの問題および障がいの理解ならびに自己理解の深化を目的とする心理学的知識や視点の獲得を目指す。加えて、心理、障がい、児童などの分野において社会福祉学に関するテーマを選定し、論文執筆の方法やプレゼンテーションの方法など研究の基礎を学ぶ。							④⑤⑥⑦⑩⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	関心のあるテーマについて資料を収集し、問題意識や課題を明確化することができる。				レポート	20%	
コミュニケーション力	プレゼンテーションを通じて自分自身の考えを他者に伝えることができる。 自分自身と他者の考えの相違点を踏まえた上で討議できる。				プレゼンテーション	40%	
協働・課題解決力	グループディスカッションに主体的に参加することができる。				ディスカッション	30%	
多様性理解力	自分自身と異なる立場や意見を尊重し、建設的に討議できる。				ディスカッション	10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
定期試験はおこなわず、レポート 20%、プレゼンテーション 40%、ディスカッション 40%をもって評価する。レポート課題では、課題について適切にまとめられているかどうかを評価する。プレゼンテーションでは、プレゼンテーションスキルを評価する。ディスカッションでは、自分自身と異なる立場や意見を理解、尊重し、建設的な討議ができていくかどうかをもとに評価する。課題への取り組みやプレゼンテーションの内容については、授業内でのコメントなどを通じてフィードバックをおこなう。							
授業の概要							
本授業は、ゼミ形態での授業を基本とし、心理学や障がい児・者および子どもを対象とする支援をテーマに取り上げ、学修を進める。プレゼンテーションや自己分析、レポート作成といった授業課題に個別に取り組む。それによって、論理的思考力や自己理解力を醸成する。 この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。							
教科書・参考書							
教科書：指定しない 参考書：適宜紹介する 指定図書：佐藤佳弘『わかる!伝わる!プレゼン力：プレゼンテーション虎の巻』武蔵野大学出版会							
授業外における学修及び学生に期待すること							
障がい児・者や子どもへの支援に関心がある学生の履修を期待する。 本授業では、グループワークやグループディスカッションが求められるため、受講学生の主体的な参加を期待する。 さらに、指定するボランティア活動への積極的な参加を期待する。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	シラバスの内容や授業の進め方などについて説明する。	予習：シラバスを熟読する 復習：今後の授業の進め方を確認する
2	プレゼンテーション①	前期に作成した研究レポートの発表を振り返り、よりよいプレゼンテーションの方法についてディスカッションをおこなう。	予習：前期の研究レポートを確認する 復習：プレゼンテーションの構成を考える
3	プレゼンテーション②	前期に作成した研究レポートの発表を振り返り、よりよいプレゼンテーションの方法を学修する。	予習：プレゼンテーションの方法を調べる 復習：プレゼンテーションの方法を省察する
4	プレゼンテーション③	学修したプレゼンテーションの方法にもとづき、プレゼンテーション資料を作成する。	予習：プレゼンテーションの方法を調べる 復習：プレゼンテーションの内容を推敲する
5	プレゼンテーション④	学修したプレゼンテーションの方法にもとづき、プレゼンテーション資料を作成する。	予習・復習：プレゼンテーションの内容を推敲する
6	プレゼンテーション⑤	作成したプレゼンテーション資料をもとに発表をおこなう。発表者のプレゼンテーションの方法や内容についてディスカッションをおこなう。	予習：プレゼンテーションの発表準備をおこなう 復習：プレゼンテーションへの取り組みを省察する
7	自己分析①	心理検査を実施し、自分自身の性質やコミュニケーションのあり方について理解する。	予習：自己の性格や性質について考えをまとめる 復習：心理検査の結果を省察する
8	自己分析②	心理検査を実施し、自分自身の性質やコミュニケーションのあり方について理解する。	予習：自己の性格や性質について考えをまとめる 復習：心理検査の結果を省察する
9	自己分析③	心理検査を実施し、自分自身の性質やコミュニケーションのあり方について理解する。	予習：自己の性格や性質について考えをまとめる 復習：心理検査の結果を省察する
10	事前学習	指定するボランティア活動への参加に向け、事前学習をおこなう。	予習：ボランティア活動を調べる 復習：ボランティア活動への参加の意義を確認する
11	ボランティア活動への参加	指定するボランティア活動に参加する。	予習：ボランティア活動参加時の留意点を確認する 復習：ボランティア活動への参加体験を省察する
12	ボランティア活動の参加体験の省察①	ボランティア活動における参加体験をレポートにまとめる。	予習：レポートの内容を考える 復習：レポートの内容を推敲する
13	オリエンテーション	3年次の専門演習に関するオリエンテーションを実施する。	予習：興味関心を明確化する
14	ボランティア活動の参加体験の省察②	ボランティア活動への参加体験についてまとめたレポートを発表し、発表内容についてディスカッションをおこなう。	予習：レポートの発表準備をおこなう 復習：レポート作成の取り組みを省察する
15	総括	専門基礎演習における全体的な学修内容を振り返り、学修到達度を確認する。	予習：学修内容を確認する 復習：学修到達度を確認する

授業科目(ナンバリング)	専門基礎演習 B (DH202)			担当教員	大町いづみ		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本演習の目的は、地域で生活する人々の健康生活上の課題について、福祉職に必要となる基本的考え方と知識、多職種と連携し協働するための力を習得することにある。そのために必要とされる情報収集力・分析力・実践力・表現力・多様性の理解と受容などを、ディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション・地域での演習・ボランティア活動等の参加型学習を通して身につけていく。</p> <p>後期においては、全世代型地域包括ケアシステムの構築に向け「多職種連携」をテーマとして地域で生活する人々を支える多職種での連携についての理解を深めることができるようにする。</p>							④⑤ ⑥⑦⑩⑫
ホスピタリオリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	課題に関連するテーマについて資料を収集し、問題意識や課題を明確化することができる。				授業への参加度レポート	5% 20%	
コミュニケーション力	調べた結果、学んだことを、プレゼンテーションを通じて他者に伝えることができる。				発言内容 ディスカッションへの貢献度	45%	
協働・課題解決力	テーマに関する課題について他のメンバーと協力・協働しながら課題解決に向けて主体的に取り組むことができる。				グループワーク	30%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>発言内容・ディスカッションへの貢献度 (45%)、課された課題レポートの内容と論理性 (20%)、主体的な授業への参加度 (35%) について総合的に評価する。提出された課題や議論内容などに対しては、授業内にフィードバックを行う。</p>							
授業の概要							
<p>本演習では、上記のねらいに沿って、医療現場と訪問看護の経験を持つ教員が担当し、現場実践を活かした学修を行う。担当教員がテーマへの情報提供を行うとともに、地域におけるボランティアへの参加と地域で人々を支援している多職種が連携する場に訪問して見学、体験学習を行う。それらを踏まえ、学生がグループワーク、ディスカッション、発表を通して課題に取り組む参加型の授業である。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：授業内で配布する資料を用いる。</p> <p>参考書：適宜紹介する。「地域共生社会」の実現に向けて 厚生労働省 (mhlw.go.jp)</p> <p>指定図書：河野哲也 「レポート・論文の書き方入門第4班 慶応義塾大学出版会</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本演習においては、地域で生活する人々の生活上の課題についての研究を進めるための考え方・知識・技術・態度を学ぶことを目的としているが、必ずしも、上記テーマでなくとも、課題解決に向けた基本的な手法を理解し、積極的に学びを深めたい学生の履修を希望する。</p> <p>地域での保健・医療・福祉実践に関心を持ち、ボランティア活動や研修に積極的に参加し、地域社会、多職種・利用者理解を深め、地域に貢献することを意識しながら主体的に取り組んでもらいたい。</p> <p>そのために、常に、社会に目を向け、大きな視野で物事を捉え、課題意識を持って自ら行動できるように、積極的に学びを深めてほしい。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	前期までの学習を踏まえ、本演習の目的、到達目標、演習のすすめ方について確認する	予習：シラバスを熟読する 復習：今後の授業の進め方を確認する
2	文献レビュー	情報収集：文献検索の方法について学ぶ。 オンラインでの文献検索方法について学ぶ。 オンラインファイルを用いた文献の整理方法について学ぶ	予習：提示する文献を読んでおく。 復習：文献検索システムを使い、関心のある文献を入手し、ファイルにまとめておく
3	研究の準備①	文献レジュメ作成の方法 研究デザインについて学ぶ	予習：提示する文献を読んでおく。 復習：講義後再度文献を読み、整理しておく
4	研究の準備②	論理的な文章作成方法について学ぶ。 解りやすい文章作成の練習	予習：提示する文献を読んでおく 復習：振り返りシートに整理する
5	福祉と医療との連携「多職種連携」①	「全世代型地域包括ケアシステム」構築に向けた多職種連携の実際について事例により学ぶ。 関心のある多職種連携に関するテーマに沿ってグループを編成し、課題発表に向けグループ内で分担を決める	予習：提示する文献を読んでおく 復習：グループの役割分担に従って情報収集を行う
6	福祉と医療との連携「多職種連携」②	グループごとに、調べた情報やディスカッションを通して、発表資料を作成する	予習：グループの役割分担に従って情報収集を行う 復習：グループで発表資料を完成する
7	福祉と医療との連携「多職種連携」③	全体で調べたことのプレゼンテーションを行う グループワークの取り組み状況について振り返り、自己評価を行う。 ※課題レポートの作成	予習：発表の準備を行う 復習：振り返りシートを用いてレポートを作成する
8	福祉と医療との連携「多職種連携」④	地域で開催されている地域ケア会議に参加する。 見学、意見交換を通して理解する	予習：地域ケア会議についてまとめておく 復習：事例に対する意見交換内容を整理する
9	福祉と医療との連携「多職種連携」⑤	病院の地域医療連携センター（室）での、退院支援、退院調整カンファレンス等の見学、意見交換を通して理解する	予習：病院から地域への退院支援についてまとめておく 復習：学んだ内容を整理する
10	福祉と医療との連携「多職種連携」⑥	多職種が連携する場の見学を通して多職種連携について学んだことをグループごとに、ディスカッションを通してまとめる。発表資料を作成する	予習：グループの役割分担に従って情報収集を行う 復習：グループで発表資料を完成する
11	福祉と医療との連携「多職種連携」⑦	学んだことのプレゼンテーションを全体で行う グループワークの取り組み状況について振り返り、自己評価を行う。 ※課題レポートの作成	予習：発表の準備を行う 復習：振り返りシートを用いてレポートを作成する
12	地域における活動	指定するボランティア活動に参加する 地域でのボランティア活動を通して、地域で生活する人の健康、生活課題について理解する	予習：ボランティア活動内容と目的について調べる 復習：学んだ内容を整理する
13	3年次の専門演習にむけてのオリエンテーション「全体会」	全大会でのオリエンテーションにより、3年次の学修をイメージする。 卒業研究への取り組みについて準備する。	予習：オリエンテーションの資料を読んできると 復習：次年度に向けた学習内容を整理する
14	後期授業内容の振り返り②	後期の学習内容の振り返りを行い、全員で意見交換する	予習：課題に沿って学んだことをまとめておく 復習：発表の準備を行う
15	後期授業内容の振り返り③	各自、後期学習で学んだことを発表する ディスカッションにより理解を深める	予習：これまでの演習を踏まえて自己の演習に対する取り組みを省察して課題を明確にする 復習：次学年に向けて課題解決に向けた準備をする

授業科目(ナンバリング)	専門基礎演習 B (DH202)			担当教員	大島 啓		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>専門基礎演習はA・Bは、3年次開講の「専門演習」へと発展していく科目である。本演習では、関心のある社会問題、社会福祉のテーマを選択し、それに関する文献を丁寧に解説することを通じて、現代日本社会が抱える様々な（福祉）問題の全体像を把握・整理し、資料の作成やプレゼンテーション、ディスカッションを通じて社会の課題に対する思考力、判断力、表現力を涵養することを目標とする。この演習はとりわけ、地域社会や国際社会の多様な課題に対応しうる理論的知識を深める点に特色がある。専門演習に向けて学修を深めるために、各自のテーマ設定や論文の書き方についても学ぶ。論文のテーマ設定については、各自の興味に応じた内容を検討し、絞り込んでいく。</p>							⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力							
情報収集、分析力	現代日本社会が抱える様々な（福祉）問題に関する情報を収集し、それを分析して自己や社会の成長に役立つ知見を指摘できる。					・資料作成	10%
コミュニケーション力	ホスピタリティの精神に基づいて他の人の意見を傾聴するとともに、文献や資料を正確に読解し、テーマを発見・深めることを通じて、自分の考えを明確にした上で、相互理解を図る議論に参加できる。					・授業での発表・グループ討議など授業への参加	70%
協働・課題解決力	資料の作成・プレゼンテーションのスキルアップを通じて、課題を的確に把握し、他の人と協力して課題解決に向けた方策を立案し、実行する営みに寄与できる。					・課題提示に対するプレゼンテーション	20%
多様性理解力							
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>授業への出席・参加は当然の評価要件とし、資料の作成（評価比率10%）、プレゼンテーション（評価比率20%）、ディスカッション（評価比率70%）などによって総合的に評価する。資料作成については問題に関する情報を収集し、問題解決の糸口を発見できたかどうかを評価する。プレゼンテーションについては、他人の意見を傾聴し自分の考えを明確にした上で、相互理解を促進できたかどうかを評価する。ディスカッションについては、資料の作成・プレゼンテーションのスキルアップを通じて、課題を的確に把握し、他人と協力して課題解決に向けた立案ができるかどうかを評価する。なお発表内容に関しては、授業内にコメントの形でフィードバックを行う。</p>							
授業の概要							
<p>授業の進め方は、最初にオリエンテーションを施し、前半は、ゼミ全員でディスカッションの上決定した文献を各自分担の形でプレゼンテーションを行う。後半は、各自関心があるテーマについて文献を報告し、その過程を通じて、レポート形成の基礎となる学問的作法（問題意識の形成やテーマの絞り方、文献収集や文献の読み込み方など）を学ぶ。課題の提示・学生からの回答、テスト、学習内容のフィードバックにポートフォリオを使用する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない 参考書：『福祉系学生のための 改訂レポート&卒論の書き方』（2005）川村匡由・川村岳人 中央法規 ※適宜参照する 指定図書：2021 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験過去問一問一答＋α 共通科目編</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>3年次の専門演習の基礎となる演習なので、主体的に取り組むことを期待する。取り組みへの積極的態様の有無によって、専門演習における学修の深まりに差が出てくることが予想される。自分で社会や福祉の問題を考えるための貴重な時間なので、資料作成や発表の準備等に積極的に取り組むことを通じて、有意義に過ごしてもらいたい。授業の欠席は、できる限り事前に連絡すること</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	後期の予定や内容、進め方などスケジュールを確認する	年間スケジュールを確認する
2	論文作成の基礎①	『レポート&卒論の書き方』を通じて、論文とはそもそも何か、論文のテーマ設定、構成の仕方について学ぶ	予習: 参考書の指定部分を読んでくる
3	論文作成の基礎②	『レポート&卒論の書き方』を通じて、引用、脚注のつけ方など、論文作成の基本的な作法について学ぶ	予習: 参考書の指定部分を読んでくる
4	調査研究と文献研究①	論文購読を通じて、調査研究の作成方法と留意点を学ぶ	予習: 提示された論文に目を通しておく
5	調査研究と文献研究②	論文購読を通じて、文献研究の作成方法と留意点を学ぶ	予習: 提示された論文に目を通しておく
6	レポートのテーマ検討①	レポートのテーマについて、各自が計画した内容を発表し、全員でディスカッション	予習: 先行研究の講読 復習: テーマの検証
7	レポートのテーマ検討②	レポートのテーマについて、各自が計画した内容を発表し、全員でディスカッション	予習: 先行研究の講読 復習: テーマの検証
8	レポートのテーマ検討③	レポートのテーマについて、各自が計画した内容を発表し、全員でディスカッション	予習: 先行研究の講読 復習: テーマの検証
9	レポートのテーマ検討④	レポートのテーマについて、各自が計画した内容を発表し、全員でディスカッション	予習: 先行研究の講読 復習: テーマの検証
10	レポートのテーマ決定	各自、レポートのテーマを確定する。合わせて章立てや執筆スケジュール、題目届も作成する	予習: レポートのテーマや章立てについてまとめる
11	レポート作成①	各自のテーマ設定に従い、レポートの全体像やグランドデザインを示す	予習: 論文グランドデザインの作成 復習: 議論をもとに修正
12	レポート作成②	各自のテーマ設定に従い、レポートの全体像やグランドデザインを示す	予習: 論文グランドデザインの作成 復習: 議論をもとに修正
13	3年次の専門演習決めオリエンテーション(全体会)	3年次の専門演習決めオリエンテーション(全体会)に参加し、次年度の配属ゼミ希望について自分の考えをまとめる	予習: 次年度のゼミ志望の考察 復習: ゼミ希望レポートの執筆
14	レポート作成③	各自のテーマ設定に従い、レポートの全体像やグランドデザインを示す	予習: 論文グランドデザインの作成 復習: 議論をもとに修正
15	春休みの課題と指導	春休み中に取り組むべき課題を指示する	春休み期間中の課題計画の作成

授業科目(ナンバリング)	専門基礎演習 B (DH202)			担当教員	星野 秀治		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>「支援」には権力性が伴う。専門家としての支援は、権力性に対する自覚が弱い場合には、クライアントの自尊心を傷つけ、自己決定を損ないかねない。本演習では、診断主義的な支援とは異なる、当事者の主体性とナラティブを重視したアプローチの視座を身につけることを目的とする。</p> <p>具体的には、ナラティブ、ライフストーリー、パターンリズム、ディスアビリティなどをキーワードとし、社会学・文化人類学・法学などの基礎文献の中から、受講者全員の関心や希望を聴取した上で1冊を選び精読する。教員の専門領域は法学であるが、キャリアコンサルタントとして「ひきこもり」支援などを行ってきた。現在は、制度や専門家が個人の人生をどのようにサポートすべきか（／どこからはすべきでないか）に関心を持って研究を進めており、分野にこだわらずに、広く一緒に学んでいきたい。</p> <p>また、文献の講読を通じて、議論の仕方、プレゼンテーションの方法、資料の作成方法、文献・資料の検索方法などについても学び、今後の発表、卒業論文作成に必要なスキルを身につけることも副次的な目的とする。</p>							①②③ ⑤⑥⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> 疑問に思ったテーマについて、資料を収集することができる。 問題について客観的に分析する姿勢をもつことができる 				発表資料	20%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを発表し、議論することができる 文章で適切に表現することができる 				発表内容	50%	
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> 自分と異なる立場を尊重し、建設的な議論ができる。 				授業への参加度	30%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>発表内容（50%）、発表資料（20%）、授業への参加度（30%）、で評価する。</p> <p>発表資料においては、資料収集、客観的な分析、自分の考えの掘り下げができたかについて評価する</p> <p>授業への参加度においては、自分の意見を適切に表明できたか、建設的な議論ができたかを評価する。</p> <p>必要に応じて、授業内外でコメントし、フィードバックを行う。</p>							
授業の概要							
<p>本演習は、ゼミ形態での授業を基本とし、社会学・経済学・法学・文化人類学などの基礎文献から、1冊を選び精読する。選書にあたっては、受講者全員の関心や希望を聴取し、それをもとに教員で設定する。具体的には、テキストの章や節ごと、担当者に該当部分の要約・疑問点等を報告してもらい、それについて、参加者全員で議論をするという流れをとる（内容については事前に相談等にのります。また複数名による報告もありえます）。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：例として、波平恵美子『医療人類学入門』（朝日選書、1994）を選んだ場合の授業内容を示している</p> <p>参考書：適宜指示する</p> <p>指定図書：松本茂ら著『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』玉川大学出版部</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>高校野球の意義はあるだろうが炎天下でやる必要はあるのだろうか、年金制度は大切だが国家が積立（助け合い？）を強制したりすることが許されるのだろうか、そんな問題に関心を持つ、好奇心旺盛な学生の履修を期待する。テキストを議論の足がかりとするが、授業外でも、学生時代ならではの体験をたくさんして授業に還元して欲しい。</p> <p>みんなで議論しながら、お互いに、考える力を伸ばしていくことができたらと思っている。自分と異なる考えを尊重しつつ、自分の感じた小さな違和感を大切にしたい。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	後期の予定や内容、進め方などを確認する	年間スケジュールの把握 割り振りの確認
2	ヴードゥー・デス	文献の報告およびディスカッション、全体での議論 (右は波平『医療人類学入門』を選んだ場合)	資料作成(担当者)と、全 員が該当部分を読んでおく
3	クールー病	担当者による資料作成・報告をおこなう 全体での議論をおこなう	資料作成(担当者)と、全 員が該当部分を読んでおく
4	極北ヒステリー	担当者による資料作成・報告をおこなう 全体での議論をおこなう	資料作成(担当者)と、全 員が該当部分を読んでおく
5	カリバニズムと タンパク質欠乏	担当者による資料作成・報告をおこなう 全体での議論をおこなう	資料作成(担当者)と、全 員が該当部分を読んでおく
6	「熱い食べ物」と 「冷たい食べ物」	担当者による資料作成・報告をおこなう 全体での議論をおこなう	資料作成(担当者)と、全 員が該当部分を読んでおく
7	「病人役割」と 「患者役割」	担当者による資料作成・報告をおこなう 全体での議論をおこなう	資料作成(担当者)と、全 員が該当部分を読んでおく
8	「文化結合症候群」 という考え方	担当者による資料作成・報告をおこなう 全体での議論をおこなう	資料作成(担当者)と、全 員が該当部分を読んでおく
10	「治療戦略」とは何か	担当者による資料作成・報告をおこなう 全体での議論をおこなう	資料作成(担当者)と、全 員が該当部分を読んでおく
11	豪雪地帯の山村における 「治療戦略」	担当者による資料作成・報告をおこなう 全体での議論をおこなう	資料作成(担当者)と、全 員が該当部分を読んでおく
12	健康は幻想か	担当者による資料作成・報告をおこなう 全体での議論をおこなう	資料作成(担当者)と、全 員が該当部分を読んでおく
13	全体会	専門演習のオリエンテーション	全体会の準備
14	自らのための医療人類学	担当者による資料作成・報告をおこなう 全体での議論をおこなう	資料作成(担当者)と、全 員が該当部分を読んでおく
15	2年次のまとめ	ゼミを振り返り、自分の関心のあるテーマ(授業テ ーマと関係なくてよい)について検討する	自分の関心のあるテーマに ついて考える

授業科目(ナンバリング)	専門基礎演習 B (DH202)			担当教員	脇野 幸太郎		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>前期演習 A で得られた社会保障に関する理解をもとに、「ソーシャルワーカーと社会保障」という視点を獲得し、それを深化させることをめざす。</p> <p>具体的には「福祉現場と社会保障」というテーマを設定し、①自分自身と社会保障のかかわり、②福祉現場で福祉サービスを利用している人びと（高齢者、障害者など）と社会保障のかかわり、③現場の実情と社会保障制度の関係などについて考えることを通じて、ソーシャルワーカーにおける社会保障制度理解の必要性についての認識を深めることを目標とする。</p> <p>また、裁判所見学などの現場見学や、地域との交流・ボランティア活動など、学外での活動を行うことも考えている。</p>							⑤⑥⑦⑧
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力							
情報収集、分析力	与えられた課題について、自分の考え（自分はどうのように考えるか、それはなぜか）をまとめることができる。					・発表レジュメ ・発表内容（特にその独自性）	20%
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> 与えられた課題に関する自分の考えについて、文章で適切に表現したり、発表したりすることができる。 他者の意見を傾聴するとともに、それに基づく議論に積極的に関与することができる。 					・発表レジュメ ・議論への参加、発言	50%
協働・課題解決力	与えられた課題について、メンバーと協働してその解決策を模索することができる。					・発表レジュメ ・発表内容	30%
多様性理解力							
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>出席は当然の前提として、ゼミの特性である「発表すること」「傾聴すること」「議論すること」、それを通じて「読む」「書く」「話す」といった基礎的能力を身に付けることができているかを重視して評価する。発表内容や議論の内容に対しては、授業内でコメントをする形でフィードバックを行う。</p> <p>評価基準は長崎国際大学の成績評価基準に準拠する。</p>							
授業の概要							
<p>2 回目の授業で、後期のテーマ（福祉現場と社会保障）に即した報告内容の候補を全員で持ち寄り、それを受講者に割り振ったうえで、各自の担当内容について調査・レジュメ作成・発表を行う。また、福祉現場と社会保障制度の実際との関係を理解するために、社会保障に関連する裁判例の講読にもチャレンジしてみたい（これについては、担当教員がきちんと指導を行うので、心配する必要はない）。さらに、現場をより具体的に理解するために、福祉関連施設の見学を行うことも考えている。</p> <p>この授業の標準的な1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分である。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：資料を配布する。</p> <p>参考書：『厚生労働白書 令和3年版』</p> <p>指定図書：初回の演習で相談のうえ決定する。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>前期A以上に内容が専門的になるが、社会保障や法律についてはじめて学ぶことを前提として適宜説明や指導を行うので、その点についてはご心配なく（ただし、それを理解しようとする意欲と積極性は必要である）。</p> <p>前期Aに引き続いて、テーマについて、楽しく、ときには深刻に議論しながら、みんなで何でも話し合えるような、明るく楽しい演習になればと思っています。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	後期の予定の確認、各自の夏休みの報告などを行う。	発表課題の候補を考えておく。
2	後期のテーマ設定	「福祉現場と社会保障」というテーマに即した発表課題の候補を受講者全員で持ち寄り、後期の報告テーマの設定と割り振りを行う。	次回の課題に向けての準備。
3	福祉現場と社会保障①	担当者によるレジュメ作成・報告、および全体でのディスカッション	予習：指定文献の講読。 復習：議論を踏まえ、再度指定文献を読む。
4	福祉現場と社会保障②	担当者によるレジュメ作成・報告、および全体でのディスカッション	予習：指定文献の講読。 復習：議論を踏まえ、再度指定文献を読む。
5	福祉現場と社会保障③	担当者によるレジュメ作成・報告、および全体でのディスカッション	予習：指定文献の講読。 復習：議論を踏まえ、再度指定文献を読む。
6	福祉現場と社会保障④	担当者によるレジュメ作成・報告、および全体でのディスカッション	予習：指定文献の講読。 復習：議論を踏まえ、再度指定文献を読む。
7	福祉現場と社会保障⑤	担当者によるレジュメ作成・報告、および全体でのディスカッション	予習：指定文献の講読。 復習：議論を踏まえ、再度指定文献を読む。
8	福祉現場と社会保障⑥	担当者によるレジュメ作成・報告、および全体でのディスカッション	予習：指定文献の講読。 復習：議論を踏まえ、再度指定文献を読む。
9	見学事前学習	次回見学を行う社会福祉関連施設について、事前調査を行う。	予習：見学事前学習に向けた準備（見学先の情報収集等）。
10	現場を知る (学外見学)	社会福祉関連施設の見学	復習：見学に関するレポート作成。
11	見学事後学習	前回の見学内容についてのレポートをまとめ、発表する。	復習：議論を踏まえ、自分のレポートを読み返し、修正する。
12	裁判例講読にチャレンジ	社会保障や社会福祉に関連した裁判例を読んでみる。	予習：見学事前学習に向けた準備（見学先の情報収集等）。
13	3年次の専門演習決めオリエンテーション（全体会）	3年次の専門演習決めオリエンテーション（全体会）に参加し、次年度の配属ゼミ希望について自分の考えをまとめる。	予習：次年度のゼミ志望の考察、復習：ゼミ希望レポートの執筆
14	レポート作成課題	専門基礎演習のまとめとしてのレポートのテーマ設定と報告	予習：見学事前学習に向けた準備（見学先の情報収集等）。
15	1年間の省察とまとめ	レポート提出と1年間の省察を行う	3年時に向けての自身の課題の確認と準備。

授業科目(ナンバリング)	専門基礎演習B (DA302)			担当教員	坂本雅俊		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>授業は年間を通してすすめる演習プログラムを用いて行う。そのため学生が、演習プログラムに参加することで、専門性を軸に人間性を豊かにする諸能力を身に付けることをねらいとする。</p> <p>1、演習室においてゼミ形式の授業を行う。個々人の「パフォーマンス」の力の向上をねらう。</p> <p>2、福祉施設へ出かけて行きボランティア公演研修を行う。利用者の生きがいに寄与するとともに、利用者理解を深める。</p>							②④⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力							
情報収集、分析力	福祉施設利用者のニーズを分析し自己及び社会の成長に役立てる力を身に着けることができる。					授業での意見交換	20%
コミュニケーション力	ボランティアシップに基づいて、多様な人々と文化的交流を図るコミュニケーション力を身に着けることができる。					公演研修への参画	50%
協働・課題解決力	地域を巻き込む企画力、及び、地域におけるアートな創作活動に携わることで、課題解決の基礎力を身に着けることができる。					公演研修の企画	30%
多様性理解力							
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>自分の意見を発表すること。その代表的な発表を授業中にフィードバックし学生間で共有する。授業で行うワーキングにおいて意見交換の発言内容により20%の評価を行う。公演研修の企画での発言内容により30%の評価を行う。また、公演研修への参画の内容により70%を評価する。そして、フィードバックの発表会において、各自がポートフォリオの達成度として自己評価を行う。</p>							
授業の概要							
<p>演劇公演ボランティア研修をする。舞台づくりは裏方も含めて観客と一緒に特別な空間場面を創る。役者は「言葉のキャッチボールと体の動き」による表現者として、SWとして必要な人間的距離感を獲得することができる。テーマに沿って、ICTを用いてゲストと意見交換できる機会を設ける。その際、教師が介入を繰り返すことで、ディスカッションに参加し、教師はそのフィードバックを行う。授業の案内はポートフォリオを用いて行う。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：小室豊允編集代表（2007）『高齢者施設用語事典』中央法規</p> <p>参考書：九州社会福祉研究会編（2019）『現代福祉用語辞典』学文社</p> <p>指定図書：関家新助（2004）『西洋哲学思想と福祉』中央法規</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>2年生だからこそできる様々なボランティアを体験してほしい。そのことが将来にソーシャルワーカーとなったとき、プロフェッショナルとしての「アイデンティティ」を抱くことにつながる。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	後期のゼミの運営方針を知る。	学修についての後期の計画を共有する。
2	社会福祉のレポートについて	レポート作成のための資料の検索方法について理解できる。原著論文を書写して提出できる。	予習：統計資料を読む。 復習：書写する。
3	ボランティア研修における落語劇	福祉ボランティア研修の全体の流れを構成した上で練習できる。	予習：落語劇を調べる。 復習：企画書を作成する。
4	ボランティア催事研修の準備	福祉ボランティア研修の題目と脚本を決め練習できる。リハーサルできる。	予習：段取りを行う。復習：備品など点検する。
5	福祉ボランティア催事研修の練習	リハーサルを行う。皆で協力して練習ができる。ゲストとの意見交換。	予習：自分の役をしっかりと確認する。復習：意見交換を振り返る。
6	福祉ボランティア研修（1回目）	催事における礼節を理解し、福祉ボランティアを行うことができる。	予習：個人リハーサル 復習：思い出を振り返る。
7	福祉ボランティア研修の振り返り	福祉まつりや高齢者との交流会へ参画することができる。	予習：時代考証を反省する。復習：企画を改善修正する。
8	次回のボランティア研修における時代劇と落語劇	次回の福祉ボランティア公演の全体の流れを企画できる。	予習：準備に備える。 復習：思い出を振り返る。
9	次回のボランティア研修の準備	次回の福祉ボランティア研修のリハーサルを行うことができる。	予習：次回企画を考える。 復習：心の準備を行う。
10	次回の福祉ボランティア研修の練習	時代劇衣装の扱いや舞台での礼節を理解できる。	提供資料を読む。図書館で論文検索を行いレジュメを作成しまとめる。
11	福祉ボランティア研修（2回目）	福祉ボランティア研修を行う。	予習：練習を行う。 復習：反省点を確認する。
12	ボランティア研修の振り返り	福祉まつりや高齢者との交流会へ参画する。	予習：利用者との交流をイメージする。復習：今後の課題を考える。
13	3年次専門演習のオリエンテーション	オリエンテーションへ出席する。	オリエンテーションを振り返る
14	振り返り	後期に身に付けたボランティアの技能を振り返る。学修内容を言葉で表し文章化する。	予習：提供資料を読む。復習：討論後の資料をまとめる。レポート作成。
15	前期・後期の総まとめ	振り返りと総括、今後の方向を話し合う。ポートフォリオに達成できたことを自己評価して記入する。	振り返りと記録。